

和紙糸でストレッチデニム

備後撚糸 ニット試作へ

備後撚糸（広島県福山市、光成猛社長）は独自の技術の「水撚り製法」による和紙糸を使った新しいストレッチデニムを開発した。経糸に綿、緯糸に交撚してポリウレタンを入れた和紙糸を打ち込んでいる。従来品を改良

したもので、伸縮性が向上。レディスジーンズやジャケットなどに提案していく。価格はメートル当たり2500円。通常の和紙糸デニムはメートル当たり1300円。

今後開発に取り組むのがニット。和紙糸は綿番手換算で30番手まで対応可能でストレッチ含め、ウールやカシミヤとの複合を検討、現在試作に取り組んでくれるニッターを探している。

和紙糸による生地は毛羽なく光沢がある高級素材。吸水性に優れ、夏場にも蒸れず、おいを発生させない。軽さや柔らかさ、独特の風合いを持つ。

ユーザーであるジーンズブランド「鬼ヶ島」からはリピート受注が続く。和紙デニムは上代価格が3万円台と高額だが、全体では累計3000着分を販売した。新たにあるレゲエバンドが展開するブランドにも採用が決まっている。また、和紙糸使いのバッグやストールも通販で新規取り扱いが1社増え、計2社で販売していく。

和紙糸の生地は、今年広島で開催されたG8下院議長会議（議長サミット）で各国議長に贈呈されたメモ帳のケースにも採用され好評。東京にある一流ホテルにもノベル

ティール用に500冊納入が決まっている。同ホテルは全国および海外にも展開しているため、同社は一層の広がりに期待を寄せている。

備後撚糸は来年2月の東京ビッグサイトで開かれるギフトショーに出展する。また、今月中旬から1カ月間、京都の店舗を借り受け、和紙糸使いのバッグ、ストールなどを販売、消費者に直接アピールする。